

桃源郷通行許可証

埼玉県立近代美術館

2022年10月22日(土) → 2023年1月29日(日)

Passport to Shangri-La

Oct. 22, 2022 — Jan. 29, 2023

The Museum of Modern Art, Saitama

主催=埼玉県立近代美術館

協力=JR東日本大宮支社、FM NACK5、浦和PARCO

助成=芸術文化振興基金

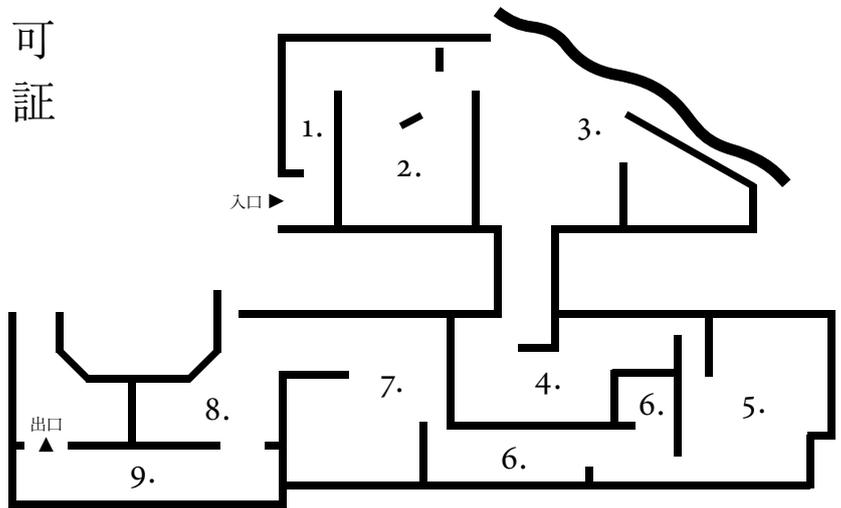
会期中、一部作品の展示替を行います。

○前期=2022年12月4日(日)まで

●後期=2022年12月6日(火)から

展示期間の記載がないものは通期展示となります。

撮影不可マークのついた作品の写真撮影はご遠慮ください。



1.

Prologue

展覧会「桃源郷通行許可証」へようこそ。本展は、当館のコレクションをはじめとする古今東西様々な時代、ジャンルの多彩な美術作品との出会いを通して、時空を超えた芸術の魅力を探る展覧会です。このセクションではイントロダクションとして、展覧会のタイトルにちなんで「桃源郷」を画題にした作品を起点に、私たちが異なる時空間へと誘う作品を紹介します。

桃源郷は中国の詩人、陶淵明(365-427)が記した物語「桃花源記」に登場する、世俗から解放された理想郷です。桃源郷は人々の憧れを呼び起こし、多くの文学や美術のイメージの源泉として、それぞれの時代の精神や社会状況を反映しながら広く親しまれてきました。桃の花が咲く林の奥に、穏やかで美しい田園の情景が広がる桃源郷の様子を描いた桃源図(Nos.1-01~1-04)のように、現在の時空から離れた物語や神話、歴史の世界は、芸術の重要な主題として表現され、人々

に受容されてきました。ウジェーヌ・ドラクロワ(1798-1863)の《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》(No.1-07)や、同系色の版を複数重ねることによって立体感や明暗を表現する技法であるキアロスкуроを用いて制作された木版画(前期展示No.1-08/後期展示No.1-09)は、キリスト教の主題の物語を力強く伝えています。また、大正時代に訪れた中国の旅に基づく堂本印象(1891-1975)の情感豊かな日本画(前期展示、No.1-05)は、遠い地への憧憬を掻き立てます。

私たちが現在の時空間から遠く離れた場所を想い、そこへ到達することを希求する時、芸術作品は視野を豊かに広げるための多くの示唆を与えてくれます。とはいえ「桃源郷」は全く非現実的な場所ではありません。林の奥深くにあるといわれるその場所は、日常と地続きのどこかに潜在し、ふいにたどり着くことができるのです。

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
1-01(○前期)	山本梅逸	青緑桃源図	1846年	絹本着色	遠山記念館
1-02(●後期)	童基	桃源図	清時代	絹本着色	泉屋博古館
1-03(○前期)	小川芋銭	陶淵明桃花源詩意	1926年頃	絹本着色	愛知県美術館(木村定三コレクション)
1-04(●後期)	小川芋銭	桃花流水送漁夫	1934年	絹本墨画淡彩	愛知県美術館(木村定三コレクション)
1-05(○前期)	堂本印象	春酒沽	1921-23年頃	絹本着色	埼玉県立近代美術館(平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈)
1-06(●後期)	吉川霊華	羅浮僊女	1928年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
1-07	ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860年	油彩、板にカルトン貼付	埼玉県立近代美術館寄託(丸沼芸術の森)〔登録美術品〕
1-08(○前期)	アントニオ・ダ・トレント/ (原画)バルミジャーノ	聖ペテロとパウロの殉教	16世紀	木版(キアロスкуро、黒と緑の濃淡三版)	町田市立国際版画美術館
1-09(●後期)	(原画)コレッジョ	聖カタリーナの神秘の婚姻	17世紀	木版(キアロスкуро、黒・黄土色濃淡四版)	町田市立国際版画美術館

佐野陽一×斎藤豊作

SANO Yoichi × SAITO Toyosaku

佐野陽一(1970-)は、ピンホール・カメラの原理を援用し、山や湖畔、池、木漏れ日などを被写体として、光の原初的な姿を捉える作品を制作してきました。ボディキャップに穴を開けたカメラを使って撮影された写真には、わずかな光が取り込まれ、輪郭がぼやけたおぼろげな状態の像が写し出されます。

佐野の作品は、私たちが光を認識し、物象を知覚するプロセスへと働きかけることによって、私たちの記憶の奥深くにある風景と結びつき、内的な感覚を引き起こさせます。本展では、2015年に長野県上高地で撮影されたフィルムをプリントした新作(Nos.2-11~2-13)を中心に、井の頭自然文化園にかつて設けられていた「熱帯鳥温室」に通って撮りためた「tropiques」(温室)のためのエスキース(No.2-10)や旧作を交え、当館が所蔵する斎藤豊作(1880-1951)の作品とともに展示し

ます。

豊作もまた、写真と絵画という表現手法の違いはありながら、刻一刻と移ろう光の印象そのものを捉えようと試みた画家です。埼玉県越谷市に生まれた豊作は、東京美術学校卒業後の1906年、フランスに渡りました。フランス滞在中、豊作は《フランス風景II》(No.2-22)、《フランス風景III》(No.2-21)など、豊かな色彩を用いた点描技法による風景画を制作し、帰国後はその表現を日本の画壇に伝えました。1920年、豊作は妻子とともに再度渡仏し、亡くなるまでサルト県のヴェヌヴェルで暮らしました。その頃パステルで描かれた《ヴェヌヴェルの桃》(No.2-23)にみられる満開の桃の花が大きく風に揺らぐ様子は、併置される佐野の「tropiques」のシリーズとともに、植物が持つ強い生命力を感じさせます。

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
2-01	佐野陽一	flow	2015-17年	発色現像方式印画	作家蔵
2-02	佐野陽一	flow	2015-17年	発色現像方式印画	作家蔵
2-03	佐野陽一	reservoir (夏)	2018-19年	発色現像方式印画	作家蔵
2-04	佐野陽一	ひかりのみず(0053-9)	2008-09年	発色現像方式印画	作家蔵
2-05	佐野陽一	ひかりのみず(0754-4)	2007-14年	発色現像方式印画	作家蔵
2-06	佐野陽一	flow (カヤックを漕ぐ人)	2009-11年	発光現像方式印画	東京都写真美術館
2-07	佐野陽一	flow	2009-14年	発色現像方式印画	作家蔵
2-08	佐野陽一	ひかりのみず(0056-7)	2008-09年	発色現像方式印画	作家蔵
2-09	佐野陽一	flow	2004-05年	銀色素漂白方式印画	作家蔵
2-10	佐野陽一	tropiquesのためのエスキース	2008-11年／ 2012-13年／ 2013年	発色現像方式印画 [25点組]	作家蔵
2-11	佐野陽一	reservoir (秋日)	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-12	佐野陽一	flow (秋日)	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-13	佐野陽一	flow (秋日)	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-14	佐野陽一	flow (夏)	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-15	佐野陽一	flow (夏)	2015-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-16	佐野陽一	flow	2010-15年	発色現像方式印画	作家蔵
2-17	佐野陽一	flow	2010-15年	発色現像方式印画	作家蔵
2-18	佐野陽一	reservoir	2002-03年	銀色素漂白方式印画	作家蔵
2-19	佐野陽一	reservoir (夏)	2018-19年	発色現像方式印画	作家蔵
2-20	佐野陽一	8月の自転車	2019-22年	発色現像方式印画	作家蔵
2-21	斎藤豊作	フランス風景III	1910年頃	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
2-22	斎藤豊作	フランス風景II	1910年頃	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
2-23	斎藤豊作	ヴェヌヴェルの桃	1930年頃	パステル、紙	埼玉県立近代美術館

文谷有佳里×菅木志雄

BUNYA Yukari×SUGA Kishio

文谷有佳里(1985-)の制作は、作曲を専攻していた大学時代に始めた小さなクロッキー帳への線描に端を発しています。有機的な曲線の形態から出発したドローイングは、記譜の訓練に加え、建築のドローイングや図面への関心などもあわさり、より細密で複雑な画面へと展開していきました。

制作には、ペンや鉛筆、カーボン紙などすぐに手に取れる日常的な画材が用いられます。微細なペンによる描画は、記号のようなかたちや多様な直線、曲線など種々の線を組み合わせながら構造を変化させることによって、奥行のある空間を生み出します。一方、小さく切ったカーボン紙で転写する方法は、手の動きの緩急や強弱がよりダイレクトに出力されるといいます。ペンとカーボン紙の描線が織り交ぜられた新作(Nos.3-01, 3-02)は、この二つの方法を画面に「乳化」させる試みです。

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
3-01	文谷有佳里	drawing 2022.6.25	2022年	ペン、カーボン紙、紙	作家蔵
3-02	文谷有佳里	drawing 2022.6.26	2022年	ペン、カーボン紙、紙	作家蔵
3-03	文谷有佳里	drawing 2022.6.27	2022年	ペン、紙	作家蔵
3-04	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.12.10	2016年	インク、ケント紙、パネル	東京都現代美術館
3-05	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2012.6	2012年	ペン、紙	作家蔵
3-06	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2010.10.21	2010年	ペン、紙	作家蔵
3-07	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.8.14	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-08	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.5.2	2016年	ペン、カーボン紙、紙、 パネル	作家蔵
3-09	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.5.1	2016年	ペン、カーボン紙、紙、 パネル	作家蔵
3-10	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.8.13	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-11	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2016.8.15	2016年	カーボン紙、紙、パネル	作家蔵
3-12	文谷有佳里	なにもない風景を眺める 2019.5.7	2019年	鉛筆、カーボン紙、紙	作家蔵
3-13	文谷有佳里	初期ドローイング等	ケース左： 2006-08年 ケース右： 2008-11年	[45点]	作家蔵
3-14	菅木志雄	四囲分集	1994年	木、石、ペイント	埼玉県立近代美術館(平成25年度 双ギャラリー寄贈)
3-15	菅木志雄	界測	1990年	鉄、木	埼玉県立近代美術館(平成25年度 双ギャラリー寄贈)

松井智恵×橋本関雪

MATSUI Chie×HASHIMOTO Kansetsu

1980年代より、立体やドローイング、映像、絵画など様々なメディアを用いたインスタレーションを手がける松井智恵(1960-)。《青蓮丸、西へ》(No.4-01)は「道後オンセナート2018」において、愛媛県松山市道後の温泉旅館で発表されたインスタレーションです。油彩画や「湯玉ランプ」、隆起する島を思わせる立体、そして音という要素で構成される本作品は、鑑賞者が空間全体を身体的にめぐると同時に、物語

菅木志雄(1944-)は1960年代より、即物的な素材に、配置や接合などのシンプルな行為を加えることで、その場所に潜在している空間の広がりや多様性を浮かび上がらせる独自の方法論を探究してきました。木の角材と中央に積まれた石、斜めに置かれるグレーの木片から構成される菅の《四囲分集》(No.3-14)に対して文谷は、身体や心理の状態をコントロールしていくことに意識を注いでいるという自身の制作のプロセスとも結びつけながら、様々な素材によって浮かび上がる軽さや重さを見出し、「それぞれの素材を見たときに筋肉の動きが変わるような」印象を受けたといいます。

このセクションの展示室は、黒川紀章の設計による建物の中でもとりわけ特徴的な、波状の曲面ガラスを有しています。文谷と菅の作品に加えて、展示室の内側と外側とが接続されていくような空間も重層的に響きあい、私たちに新たな身体感覚を呼び起こします。

が展開される壁画調の油彩画を目線を動かしながら辿ることによって、私たちの身体の感覚をゆるやかに解きほぐします。本展では、日本画家・橋本関雪(1883-1945)の作品と、新たに《青蓮丸、西へ》の続きとして制作された、謡曲の物語が踏まえられたシリーズ「ひばり山」の油彩作品などを交え、当館の展示空間に合わせて再構築します。松井は船や馬に乗る人など、自作と共通するモチーフも登場する関雪の作

品を展示空間に溶け込ませながら、物語の行き先を探ろうとしています。

本展では、あわせて「一枚さん」(Nos.4-06, 4-07)を発表します。2011年頃より松井は自身のSNS(フェイスブック、インスタグラム*)に、1日1枚、小さな紙に描いたドローイングを投稿しています。はじめは、コメント欄の自由なコミュニケーションを生み出すためのささやかなきつかけとして投稿が続けられていた「一枚さん」は、やがて作家の1日

の終わりのルーティーンとなりました。物語の断片を想起させるようなイメージがSNSの小さな四角い部屋に每晚そっと加えられる同シリーズより、本展では《青蓮丸、西へ》が初めて発表された道後の展示の初日にあたる2018年4月14日と、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって当館が臨時休館していた時期に重なる2020年2月29日から5月31日までに制作された作品を一堂に紹介します。

* https://www.instagram.com/ms_piece_chie/

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
4-01	松井智恵	青蓮丸、西へ	2018年	ミクストメディア	作家蔵
4-02	松井智恵	picture 2019-06	2019年	油彩、キャンバス	個人蔵
4-03	松井智恵	Picture「ひばり山」1	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-04	松井智恵	Picture「ひばり山」3	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-05	松井智恵	Picture「ひばり山」5	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
4-06	松井智恵	一枚さん 2020年2月29日 -5月31日	2020年	水彩他、紙[87点]	作家蔵
4-07	松井智恵	一枚さん 2018年4月14日	2018年	水彩、ペン、紙	作家蔵
4-08(○前期)	橋本関雪	春秋山水	制作年不詳	絹本着色	埼玉県立近代美術館(平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈)
4-09(●後期)	橋本関雪	峡雲夜雨	制作年不詳	絹本着色	埼玉県立近代美術館(平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈)
4-10(●後期)	橋本関雪	曠原の朝	1941年	絹本着色	埼玉県立近代美術館(平成11年度鈴木い、祢氏寄贈)

5.

東恩納裕一×マン・レイ／キスリング／山田正亮／デザイナーズ・チェア (チャールズ・レニー・マッキントッシュ、ロン・アラッド、柳宗理、graf)

HIGASHIONNA Yuichi × MAN RAY / KISLING / YAMADA Masaaki / Chairs (Charles Rennie MACKINTOSH, Ron ARAD, YANAGI Sori, graf)

東恩納裕一(1951-)は、身近な日用品や既製品をモチーフに、それらに潜む違和感や自身が抱くアンビバレントな感情を糸口として、蛍光灯やLED製のシャンデリアや平面作品、アニメーション等で構成されるインスタレーションの制作を続けてきました。

このセクションの展示室の中心には、ダイニングセットが置かれています(No.5-01)。テーブルの上には、LEDで作られた「果物皿」が白い光を放っていますが、目を移すと、モチーフを同じくするキスリング(1891-1953)の静物画(No.5-13)がクラシカルな雰囲気を感じさせる紺色の壁に掛けられていることに気がつくでしょう。大きさや外見がばらばらでどこかちぐはぐな印象も与えるユニークなデザインの4脚の椅子は、「椅子の美術館」としても知られる当館の椅子のコレクションから選ばれたものですが、ダイニングセットというモチーフ自体、東恩納のアニメーション作品《The Little Match Girl》(No.5-05)と呼応します。こ

のセクションは、東恩納の作品とマン・レイ《レイイグラフ》(Nos.5-15～5-20)をはじめとする当館のコレクション等が、共通するモチーフや表現の形式によって対の関係を結びながら、一方では空間に置かれた作品同士が自在に連鎖することでより複層的な交差が生まれ、展示室全体がインスタレーションとして東恩納の作品となっているのです。

さらに東恩納は、フェンスやゲート、ブラインドといった、「内と外を隔てる境界」として私たちの日常に遍在するモチーフから着想を得た“ストライプ”を切り口に、過去の美術作品と自作との接点を探りました。このような視点から、東恩納は山田正亮(1929-2010)のストライプの作品(No.5-14)を選出しました。ここでは、静物画を出発点にキュビズムを参照しながらモチーフの解体と再構築を試み、1960年代以降にストライプやグリッドのシリーズに移行する山田の絵画の展開にもユニークな視点が投げかけられているように思われます。

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
5-01	東恩納裕一	ダイニングセット	2022年	テーブル、デザイナーズ・チェア*、LED、プラスチック、布、配線	作家蔵
*	チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス1/ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア	デザイン:1903年/製品化:1973年	トネリコ材にエポニー塗装、ベルベット張りの座面	埼玉県立近代美術館
*	ロン・アラッド	トム・ヴァック	デザイン:1997年/製品化:1998年	ポリプロピレン、スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ	埼玉県立近代美術館
*	柳宗理	シェル・チェア	デザイン・製品化:1999年	サベリ板目、ステンレス丸パイプ・ミガキ仕上げ、ウレタン樹脂仕上げ	埼玉県立近代美術館
*	graf	XL(ブランクトン1.8)	2004年	木、鉄	埼玉県立近代美術館(平成16年度寄贈)

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
5-02	東恩納裕一	curtain	2020年	コットン、スプレーペイント、ウレタンニス、木枠	作家蔵
5-03	東恩納裕一	untitled	2022年	LED、アルミニウム、配線	作家蔵
5-04	東恩納裕一	The Little Match Girl	2022年	コットン、フェルト、まち針、木枠	作家蔵
5-05	東恩納裕一	The Little Match Girl	2020-22年	アニメーション、モニタ5台	作家蔵
5-06	東恩納裕一	fallen chandelier	2020-22年	LED、アルミニウム、配線	作家蔵
5-07	東恩納裕一	FL/el-01	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-08	東恩納裕一	FL/el-02	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-09	東恩納裕一	FL/el-03	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-10	東恩納裕一	FL/el-04	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-11	東恩納裕一	FL/el-05	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-12	東恩納裕一	FL/el-06	2007年	アクアチント、雁皮刷り	版画工房 エディション・ワークス
5-13	キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
5-14	山田正亮	Work C.105	1962年	油彩、キャンバス	府中市美術館
5-15	マン・レイ	レイヨグラフ	1926年	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館
5-16	マン・レイ	レイヨグラフ	1927年	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館
5-17	マン・レイ	レイヨグラフ	1925年頃	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館
5-18	マン・レイ	レイヨグラフ	1922年	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館
5-19	マン・レイ	レイヨグラフ	1921-22年頃	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館
5-20	マン・レイ	レイヨグラフ	1927年頃	ゼラチン・シルバー・プリント(1963年プリント)	埼玉県立近代美術館

6.

Interlude

本展では、2つの「Interlude」(幕間)のセクションを設け、コレクションを中心とする様々な美術作品を紹介しています。このセクションは、各作家のセクションから想起されるテーマをゆるやかに接続する結び目でもあり、6名の作家とコレクションを組み合わせるセクションとは異なる位相から、「桃源郷通行許可証」という本展に通底するテーマを紐解こうとするものでもあります。

*

東恩納裕一と松本陽子のセクションの間に挟まれる「6.Interlude」は、光と時間の相関関係を注目した作品を起点にしながら、当館のコレクションを中心に、丸山直文(1964-)、ポール・シニャック(1863-1935)、モーリス・ドニ(1870-1943)、秋岡美帆(1952-2018)、中西夏之(1935-2016)などの作品を紹介します。

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット(1800-1877)によって1844年から46年にかけて刊行された世界初の写真集『自然の鉛筆』(プリント作品: Nos.6-03~6-06)は、新しい科学技術としての写真の意義にとどまらず、その芸術性についても注意を払うものでした。タルボットは「(写真によって捉えられた)細部はときに、描写された光景に、予想を超えた豊かな多様性の感覚をもたらすことがある」*と写真の持つ可能性を指摘していますが、一方で絵画に目を向けると、多くの画家が日常の光景に目を留め、その奥にある目に見えない世界を掴もうとしています。ここでは、光と時間が織りなす世界を可視化し、そのありようを知覚するための示唆を与える作品を探訪します。

*ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット著、青山勝編集・翻訳『自然の鉛筆』2016年、赤々舎、p.38(括弧内は引用者注)

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
6-01	丸山直文	puddle in the woods 6	2010年	アクリル、綿布	埼玉県立近代美術館寄託(個人蔵)
6-02	ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-03(○前期)	ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット	レース	1845年12月以前	単塩紙(後年のプリント)	東京都写真美術館
6-04(○前期)	ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット	開いた扉	1844-46年頃	単塩紙(後年のプリント)	東京都写真美術館
6-05(●後期)	ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット	干し草(積み藁)	1841年頃	単塩紙(後年のプリント)	東京都写真美術館

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
6-06 (●後期)	ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット	クイーンズ・カレッジの部分、オックスフォード	1844-46年頃	単塩紙(後年のプリント)	東京都写真美術館
6-07	秋岡美帆	ゆるるかげ	1991年	ネコプリント、麻紙	埼玉県立近代美術館
6-08	モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-09	武内鶴之助	アラシの夕	1912年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館
6-10	堂本尚郎	月蝕	1978年	アクリル、キャンバス	埼玉県立近代美術館(平成15年度ウィルデンスタイン東京寄贈)
6-11	中林忠良	転位'92-地-I	1992年	エッチング、アクアチント、紙	埼玉県立近代美術館
6-12	中林忠良	転位'83-地-VIII	1983年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館
6-13	山崎博	海をまねる太陽 1-5	1978年	ゼラチン・シルバー・プリント	埼玉県立近代美術館(昭和62年度寄贈)
6-14	中西夏之	arc・green-I	1980年	油彩、木炭、亜鉛粉末、キャンバス、竹	埼玉県立近代美術館

7.

松本陽子×瑛九／ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー／菱田春草／丸木位里

MATSUMOTO Yoko × Q Ei / Jean-Baptiste-Camille COROT / HISHIDA Shunso / MARUKI Iri

松本陽子(1936-)は1960年代に滞在したアメリカで、抽象表現主義など同時代の美術に強い衝撃を受けるとともに、アクリル絵具との出会いを機に、「色つきの水墨画」を求めてアクリル画の制作に着手しました。画材との長い格闘の末、床に平置きしたキャンバスの上にたっぷり絵具をのせ、それを布でふき取りながら更に筆を重ねていく方法によって、1980年代半ばよりピンクを基調に空間全体を包み込むような独自の表現を確立しました。

1990年代後半から2000年代にかけて松本は再び油彩画の制作を始め、軸足を油彩へと移すようになりました。2005年に開催された「西村盛雄・松本陽子」展(神奈川県立近代美術館 鎌倉)をきっかけに、松本は長年憧れを抱いていながら、山や草原など自然の風景を容易に想起させてしまうことで、かえって絵画として自立させることを困難に感じていた「緑」を主調とする油彩画に取り組み、今日まで継続してこの色彩と向き合っています。

自然は古今東西の多くの画家たちにとって、身近でありながら最も重要なテーマでした。目には見えない自然の形象を、絵画でしか到達しえない表現によって掴み取り、新たな空間を立ち上げようとする過去の画家たちに対して松本は深い共感を寄せています。このセクションは、あふれる光や流動する大気を、豊かな色彩や伸びやかなストロークによって捉えようとする、松本の作品と当館のコレクションとで構成されます。こうした作品同士が交響する本セクションの展示は、絵画というメディアの豊かな魅力をあらためて発見する機会にもなるでしょう。

アクリル画の制作は気候の関係で4月から10月に限られ、どのような大きさであっても基本的には1日で作品を完成させたといえます。長年、同じ瞬間が二度と訪れることのない自然の移ろいを、自身の身体を通して鋭敏に感じ取りながら制作に向き合ってきた松本は、新たな光景を絵画空間へと現出させる飽くなき探求を続けています。

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
7-01	松本陽子	生成と解体	1995年	アクリル、キャンバス	UESHIMA COLLECTION
7-02	松本陽子	黒い岩	1990年	アクリル、キャンバス	東京都現代美術館
7-03	松本陽子	宇宙エーテル体I	2003年	アクリル、キャンバス	東京都現代美術館
7-04	松本陽子	振動する風景的畫面	2017年	油彩、オイルパステル、木炭、キャンバス	UESHIMA COLLECTION
7-05	松本陽子	生命体について	2010年	オイルパステル、木炭、紙	作家蔵
7-06	松本陽子	生命体について	2010年	オイルパステル、木炭、紙	ヒノギャラリー
7-07	松本陽子	生命体について	2021年	油彩、オイルパステル、木炭、キャンバス	作家蔵
7-08	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	砂丘にてーハーグの森の想い出	1869年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成23年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈)
7-09	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成23年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈)
7-10 (○前期)	丸木位里	紅梅	1967年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
7-11 (●後期)	菱田春草	湖上釣舟	1900年	紙本着色	埼玉県立近代美術館
7-12	瑛九	雲	1959年	油彩、キャンバス	埼玉県立近代美術館

Interlude

松本陽子と稲垣美侑のセクションの間に設けられた「8. Interlude」は、夢を主題とする駒井哲郎(1920-1976)の版画作品を中心に構成しています。このセクションは、駒井の作品と自作を組み合わせて展示を構成する稲垣とディスカッションしながらプランを組み立てました。稲垣は、「夢と現実、すべてが私にとっては夢でもあり現実でもあるのだ」*という駒井の言葉を手がかりに、夢と現実の境界、時間軸を行き来するような作家の視点に着目し、時空を超えた世界を往来するとい

う本展のコンセプトからその視点を捉え直しました。ここでは、黒い立方体の上に作家のアトリエ周辺の環境を再現する福岡道雄(1936-)の「風景彫刻」のシリーズの一つである、水面の上の飛び石に腰掛け物思いにふける作家自身の姿を配した《飛び石》(No.8-08)、ドリッピング技法を用いた抽象絵画によって内省的な世界を追求した難波田龍起(1905-1997)の《白夢》(No.8-07)とともに紹介します。

*駒井哲郎「夢と現実」『白と黒の造形』1989年、小沢書店、p.25

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
8-01	駒井哲郎	記号の静物	1951年	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、ドライポイント、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-02	駒井哲郎	時間の迷路	1952年	アクアチント(サンドペーパー使用)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-03	駒井哲郎	小さな幻影	1950年	エッチング、アクアチント(サンドペーパー使用)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-04	駒井哲郎	夢の始まり	1949年	アクアチント、ドライポイント、紙	埼玉県立近代美術館(平成13年度有限会社マルキンコーポレーション寄贈)
8-05	駒井哲郎	夢の推移	1950年	メゾチント、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
8-06	駒井哲郎	夢の終わり	1951年	メゾチント、エングレーヴィング、ルーレット、紙	埼玉県立近代美術館(平成13年度有限会社マルキンコーポレーション寄贈)
8-07	難波田龍起	白夢	1969年	油彩、エナメル、キャンバス	埼玉県立近代美術館(平成26年度柴田博氏寄贈)
8-08	福岡道雄	飛び石	1994年	強化プラスチック、木、合板	埼玉県立近代美術館

稲垣美侑×駒井哲郎

INAGAKI Miyuki×KOMAI Tetsuro

稲垣美侑(1989-)は、庭や空き地、住居などをモチーフに、土地や風景、個人との相互作用的な関係性によって生じられるイメージを考察し、ペインティングやインスタレーションによって再構築してきました。稲垣はコロナ禍に見舞われた2020年頃より「Noisy Garden(うるさい庭)」と名付けた作品群を起点に「庭」のシリーズを展開しています。稲垣は、日常の往還で得られた感覚を、一つひとつその感触を確かめるように手探りしながら、半抽象的な形態が組み合わされたモチーフと中間色を基調にした様々な色彩が同居する絵画の空間へと投げかけます。

当館が収蔵する駒井哲郎(1920-1976)のコレクションから、稲垣は生命のうごめきに鋭敏なまなざしを向けた作品に着目しました。駒井は、夢と現実が往来するような詩的な世界を主題とする作品群で高く評価され、日本における銅版画の先駆者として知られていますが、本

展に出品される、生き物の息遣いをユーモラスな視点から捉えた《飛んでいる鳥と木の葉》(No.9-21)のような作品や、豊かな色彩を用いて新たなマチエールの創出に取り組んだモノタイプの作品(《入口》No.9-19)などにも、その表現の幅広さをみることができます。「私は今まで仕事をやって来て、小さなことしか出来ないと識った。それは結局自分の世界を守って、しかも新しい一つの思想体としての独自なものを獲得しなければならないということだ。そこから全宇宙へのつながりを見出す以外、手はないのだ。」*という駒井の言葉に共感を寄せながら、稲垣は日常と非日常、あるいは現実と非現実とのあわいの領域となるような「庭」の構築を試みます。

*駒井哲郎「美しい『物体』—私の主張と実践—」『藝術新潮』1953年9月号

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
9-01	稲垣美侑	View from the vacant lot (Fragment of a house series)	2022年	油彩、釘、パネル [7点組]	作家蔵
9-02	稲垣美侑	The Noisy Garden	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-03	稲垣美侑	ゆるる草花	2022年	油彩、水彩、カットキャンバス、水彩紙、キャンバス	個人蔵
9-04	稲垣美侑	小枝と果実	2022年	油彩、水彩、水彩紙、キャンバス	作家蔵

出品番号	作家名	作品名	制作年	技法材質等	所蔵
9-05	稲垣美侑	ふたたび戻る	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-06	稲垣美侑	風と呼び声	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-07	稲垣美侑	Call (地鳴き)	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-08	稲垣美侑	Rhythm of the Field	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-09	稲垣美侑	隣り合う場所	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-10	稲垣美侑	Largo (幅広くゆるやかに)	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-11	稲垣美侑	ritardando (だんだん遅く)	2020年	水彩、色鉛筆、オイルパステル、水彩紙、パネル	作家蔵
9-12	稲垣美侑	Cantabile (Grassy place -03)	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-13	稲垣美侑	Neighbour's flower beds	2022年	油彩、水彩、カットキャンバス、水彩紙、透け紙、草木染め糸、キャンバス	作家蔵
9-14	稲垣美侑	Rain and Dandelions	2022年	油彩、オイルパステル、キャンバス	作家蔵
9-15	稲垣美侑	苗床	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-16	稲垣美侑	夜の話	2022年	油彩、カットキャンバス、キャンバス	作家蔵
9-17	稲垣美侑	On the way home	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-18	稲垣美侑	目覚め	2022年	油彩、キャンバス	作家蔵
9-19	駒井哲郎	入口	制作年不詳	モノタイプ(カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-20	駒井哲郎	庭の一隅	1965年	リフトグラウンド・エッチング(カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-21	駒井哲郎	飛んでいる鳥と木の葉	1961年	エッチング、アクアチント、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-22	駒井哲郎	大樹を見上げる魚	1967年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-23	駒井哲郎	作品名不詳	1970年頃	アクアチント(カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-24	駒井哲郎	鳥と果実	1959年	エッチング、アクアチント、リフトグラウンド・エッチング、エングレーヴィング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-25	駒井哲郎	星座	1969年	アクアチント(カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-26	駒井哲郎	粗らかな剛毛と長い爪と太い指を備えた大きな掌が不意と左辺の上方に・・・	1970年	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-27	駒井哲郎	作品名不詳	1962年頃	エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-28	駒井哲郎	からみあい	1963年	リフトグラウンド・エッチング、空押、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-29	駒井哲郎	阿呆	1960年	エングレーヴィング、リフトグラウンド・エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-30	駒井哲郎	葉	1960年	エッチング、リフトグラウンド・エッチング、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)
9-31	駒井哲郎	街	1973年	エッチング(サンドペーパー使用)、紙	埼玉県立近代美術館(平成29年度有限会社ワタヌキ/ときの忘れもの取締役 綿貫令子氏寄贈)
9-32	駒井哲郎	鏡	1962年	リフトグラウンド・エッチング、エングレーヴィング、ルーレット(カラー)、紙	埼玉県立近代美術館(平成4年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈)